

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490100019
法人名	株式会社 SHINEI
事業所名	かすみそうの家
所在地 (電話番号)	桑名市森忠1728-4 (電話) 0594-33-3337
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 3 月 26 日(木)

【情報提供票より】(H21年 3月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算	11.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 70,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(3 月 10 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きひら内科消化器科、いなべ総合病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年目を迎える施設である。同一法人の既設グループホームの経験を生かして、運営者はより質の高い介護を目指して新築をしている。木の材質を生かした広々とした空間にゆったり感が漂っている。
理念の「笑顔」を忘れない職員とあいまって、利用者がのんびり過ごせる事業所になっている。2ユニットあるが、どちらにも自由に行き来ができ、解放感もある。記録ノートは独自の工夫をこらし、その人一人ひとりの状態を的確につかみ、職員の情報共有とケアに生かされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域との交流については行事に参加をしたり、近所の喫茶店に行くなど立地条件を克服した取り組みを試みている。同業者との交流も同一法人内の交流に加えて、他の施設見学を行うなど、取り組みを図っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 月一回開催のミーティングやケアの現場での会話、申し送りノートなどから、管理者が下書きをし、職員に見てもらい検討、まとめをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 桑名市との協議で概ね3か月に一度の開催を申し合わせているが、今年度は6か月に一度の開催である。市や家族の協力は得られているが、地元自治会との交流はない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 生活ノートを作成し日々の生活や受診記録などを詳細に記録し、家族や受診時に正確な報告ができるようにしている。金銭についてもきちんと記録として残しているが、お便りなどの発行はしていない。イベント時に家族にアンケートをとり意見を吸い上げる配慮をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 立地条件上、地域と日常的に交わることは難しいが、外出記録ノートに外出記録を残し、近くの喫茶店や地域のイベントに参加するなどしている。昔の記憶を呼び起こすためにかつての生活地域の場所を訪問する事などもしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんなの笑顔はみんなの命のお薬です」と掲げた理念の言葉の”みんな”の意味あいには、かすみそうの家に関わる全ての人々を指しており、地域密着型を志している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一度のミーティングで話し合いを行っている。玄関や事務所内にも掲示され、職員への啓発を図っている。職員もよく理解し、実践に向けて生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物を兼ねて近くの喫茶店に行ったり、地域のイベント行事に参加をするなどして地域との交流に努めている。昔の記憶を取り戻せることもあり、昔住んでいた場所を訪ねる事などもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアの現場での会話、申し送りノート、月一度のミーティングでの話し合いなどを通じて管理者が下書きをし、職員に見てもらい検討、まとめをしている。昨年の改善点についても、できるところから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	保険者である桑名市との話し合いで3か月に一度の開催を予定しているが、今年度は2度の開催で終わっている。	○	自治会等には加入しておらず、近隣の地域住民との交流を図るにも立地条件が難しい部分もあるが、運営者の居宅が近いことを活用して、近隣自治会との交流も図られるように希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険や認定申請などの機会をとらえて市とは交流をたえず図っている。市側の協力も得られ、ともにサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりに生活ノートを作り、日々の流れを追った生活記録や受診記録を残している。家族との面会時にはノートを活用して連絡や報告をしている。家族へ報告をしたことは色違いのペンで記入し、報告漏れを防ぐ工夫をしている。金銭管理は小遣帳の記載があり、入金時に確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回開催するイベントの夏祭りクリスマス会において、家族へアンケートを実施し意見を吸い上げている。日常的には面会時に相談苦情を汲み取るように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立以来、新規採用職員はいるが、離職者や異動者はいない。家族へは年2回のイベント開催時に紹介をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員の段階に応じた外部研修を受けさせている。内部研修は法人合同勉強会を計画的に実施し、感想レポートの提出を求め、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に同一法人内でスタッフが相互訪問や勉強会などで交流している。他の事業所に見学に行くなどにも取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人のデイサービス事業所に慣れてもらい、職員との馴染みを作りサービス開始に入れるようしている。デイサービスの利用者以外の場合は、管理者と職員が利用者宅に伺い面談をしたり、事前に見学に来ていただくなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるという認識を常に持ち、尊敬の念とともに目上の方の話として聞いたり教えてもらったりして、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングで一人ひとりについての話し合いを行い、本人の心を知るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所独自のアセスメントシートを作成し、身体状況だけではなく、本人を知るために、本人の心の状態を記入できるような書式をつくり課題把握につとめた上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しをしているが、変わりがなければ評価はそのまま継続の形態を残している。日常のケアが先行し計画に反映することが遅れている時もある。	○	基本は3か月に一度の見直しであり、変化がなくても評価の見直し期日を明記し、現状変化に対応した計画書を作成し、計画に沿った介護サービスの実施を希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスに行っていた時の利用者との関係が切れないようにとの配慮から、デイサービスの連絡帳を使用してデイサービスとのやり取りをしたり、通院に職員が付き添い日頃の状態を説明するなど、その都度に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院には毎日のバイタルチェック表を持参し受診の際には適切な医療が受けられるように支援している。眼科医の往診による医療受診の支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望によりすでに一人の看取り経験をしている。その際、ミーティングにより家族、医師、職員は同じ思いを共有した上で終末期に対応した。入居時に看取り指針と看取り同意書をいただき家族、職員共に方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心やプライバシーについての勉強会を開催し、職員の意識向上に努めている。下着の干し方などにも注意をするなど、細やかな部分までプライバシー確保に気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを基本に体操や歌を歌うなどしているが、毛糸編みや、洋裁、手芸、書道など、その人のペースと希望を生かした一日がおくれるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的には食材業者の食事であるが、「かすみさんちのワクワクランチ」と銘打って月二回のお楽しみの食事や行事食、月1回の手づくりおやつなども取り入れている。職員はローテーションで食事に共に加わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望で入浴を決定している。入浴日程表を作成し、希望のある人や注意の必要な人にはその旨を名札に記載して入浴を楽しめる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性は主に、料理の盛り付けや洗いのなどに力を発揮してもらっているが、洗いの順番は利用者同士で決定している。男性は主に戸じまりの確認などお願いしており、それぞれの役割を通して力を生かせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出が偏らないようにお出かけ記録ノートに記載し、誰が出かけていないかが分かるようにしている。天気の良い日を見計らい散歩に出たり、ウッドデッキでお茶を飲んだりして太陽にあたる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は交通量の多い幹線道路であるため、外からは自由に入れるが、安全のために、中からはスイッチ解除が必要な仕組みになっている。リビングから続きのウッドデッキがあり、出入りは自由に行ける。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年に一度避難訓練は実施しているが、同一法人の指導の元であり、消防署との連携ではない。非常時のマニュアルについては整備されている。	○	介護施設での頻繁な火災事例もあり、地元消防署との連携強化を図り、夜間を想定した訓練の実施も希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食水分量のチェックを業務日誌に記録しているが、特に食事などの細かいチェックが必要な人については、水分量や朝昼晩の食事についても詳細な記録とチェックを行い、必要量の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営者が同一法人の既存施設から学んだ経験を生かして作り上げただけに、天井高く広々とゆったりした空間に光を十分にとりいれている。2ユニットは自由に行き来でき、快適に過ごせるようになっている。廊下の壁には利用者の絵や書道などを張り、季節感もとりにれた飾りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人に応じた持ち物が持ち込まれ、気持ち良く過ごせるよう、整理整頓され清潔感のある居室になっている。		